

## 新造船「涼かぜ（すずかぜ）」が来年2月（予定）に就航します。

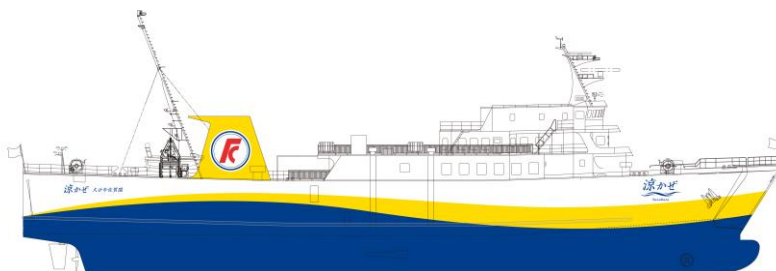
近鉄グループの国道九四フェリー株式会社（代表取締役社長：三重野 雄資）では、お客様サービスと利便性の更なる向上を図るため、来年就航 20 年を迎えるフェリー「遥かぜ（はるかぜ）」の代替船建造を本年4月より進めてきました。本日、新造船の進水式を挙行し、「涼かぜ（すずかぜ）」と命名しましたのでお知らせいたします。

新造船は船体塗装や内装のデザインを一新、エレベータや多目的トイレを設置するなどバリアフリーに対応するとともに、キッズスペースやマッサージチェア室などを設置、さらに抗ウイルス・抗菌加工を行うことで、あらゆる年代のお客様に安心・快適にご利用いただける船内空間を提供いたします。

また、現行の「遥かぜ」よりも船体を大型化することで車両積載台数が増加し、混雑時の乗船待ち時間の短縮が期待されるとともに、客室スペースの拡大によりこれまで以上にゆったりと船内でお過ごしいただけます。

詳細につきましては次のとおりです。

なお、新造船「涼かぜ」の就航は来年2月を予定しております。



「涼かぜ」の船体塗装イメージ  
(実際の船体構造は一部異なります。)

1. 新造船の名称 「涼かぜ（すずかぜ）」

2. 就航時期 2021年2月（予定）

3. 特 徴

- 船体塗装のデザインを一新するとともに、船内空間は「元気さ」と「スマートさ」をテーマにフロアごとに内装を変化させ、既存のフェリーとは異なる新たなイメージとします。
- 通常のいす席、栈敷席のほかに、授乳室やキッズスペース、有料の個室、展望席、マッサージチェア室など、あらゆる年代のお客様に快適にご利用いただける設備を設けます。

- 車両積載台数が乗用車換算で現行の「遙かぜ」より16台程度増加するため、混雑時の待ち時間短縮につながることを期待されます。
- 客室スペースを現行「遙かぜ」よりも拡大しますが定員は変更しないため、これまで以上にゆったりと船内でお過ごしいただけます。
- エレベータ、多目的トイレなどを設置しバリアフリーに対応します。
- 安心してご乗船いただけるよう、抗ウイルス・抗菌加工を実施します。

< 船内の様子（イメージのため実際と異なる場合があります） >



3階いす席



2階キッズスペース

4. 船体概要 < ( ) 内は現行「遙かぜ」 >
- 総トン数 1200トン (697トン)
  - 全長 86.65m (71.5m)
  - 幅 13.4m (12.6m)
  - エンジン出力 2000PS×2 (2000PS×2)
  - 車両積載台数 57台 (41台)  
(乗用車換算)
  - 旅客定員 292人 (292人)

## 別紙

### 国道九四フェリーの概要

1968年の設立以来、高知県高知市から大分県大分市に至る国道197号の海上区間（海上国道）として大分県佐賀関港から愛媛県三崎港を航路で結んでいます。

現在は観光や物流などで年間約26万台の車両と約55万人のお客様にご利用いただいています。（2019年度実績）

#### 【会社概要】

- ・会社名 国道九四フェリー株式会社
- ・本社所在地 大分県大分市大字佐賀関750
- ・設立年月日 1968年2月1日
- ・資本金 480,000千円
- ・従業員数 105名（2020年7月末現在）
- ・営業所 佐賀関営業所（大分県大分市）、三崎営業所（愛媛県伊方町）
- ・船舶 3隻（遊なぎ、速なみ、遙かぜ）



遊なぎ



速なみ



遙かぜ

#### 【フェリーの運航概要】

- ・運航区間 大分県佐賀関港～愛媛県三崎港（約30km）
- ・運航ダイヤ 朝7時台から夜23時台まで1時間毎で運航
- ・所要時間 約70分
- ・運航本数 1日16往復



【国道九四フェリーの年譜】

1968年（昭和43年）2月	設立
1969年（昭和44年）4月	日本道路公団から委託を受け、佐賀関港～三崎港間のフェリー航路開設
1972年（昭和47年）5月	近畿日本鉄道（現 近鉄グループホールディングス）が資本参加
1988年（昭和63年）4月	日本道路公団から事業譲受
2001年（平成13年）1月	「遙かぜ」就航（697トン）
2012年（平成24年）2月	「速なみ」就航（995トン）
2016年（平成28年）6月	「遊なぎ」就航（998トン）
2018年（平成30年）2月	設立50周年
2019年（令和元年）12月	佐賀関港新ターミナルビル供用開始
2021年（令和3年）2月	「涼かぜ」就航予定（1200トン）

以上